| 項目 | 具体的取組 | 成果と課題 | 改善策・向上策 |
|-----------|---|---|---|
| 教育課程・学習支援 | 教育活動を行い、客観的評価に基づいて、個人と組織でカリキュラムマネジメントを実施する。 | 今年度入学生より新学習指導要領が適用され、観点別学習評価の運用も始まった。カリキュラム・ポリシー (CP) の策定は昨年度中に完了しており、CPに沿った授業実践の準備も昨年度中には始めていたため、授業実践に取り組んだ教員の割合は90.3%と、目標指数を大きく上回った。また今年度は、授業改善のための会議や研修会の機会がこれまで以上に多く設けられ、教員の意識が高まっていることもあり、会議や研修に参加し授業計画再設計に取り組んだ教員は1名を除くほぼ全員で、同じく目標指数を大幅に上回った。これらの結果から、新学習指導要領の趣旨に沿って授業を改善し質を高めようとする教員の意識は十分に醸成されていると考えられる。しかし、今はどの教員も試行錯誤を重ねながら授業改善に取り組んでいる段階であり、その成果をCPと照らし合わせながら客観的に判断できるようになるまでにはもう少し時間を要する。 | うが、並行して、生徒の探究的な学びを引き出しているか、グラデュエーション・ポリシー (GP) で示した生徒像にどれだけ近づいているかの検証方法を検討するとともに、授業内容についても検討の場を設けることによって、授業改善を一層進めていく。また、新学習指導要領適用に向けて適切な回数を実施した校内研修の機会を今後も維持し、さらに効果的なものとなるよう、研修の内容をアップデートする。 |
| | を活用し、探究的な学び (課題設定・情報収集・整 理・分析・まとめ・表現) のために活用する。探究の | 指数を上回った。一方で、全員がICTデバイスを活用しているはずの生徒のうち8.2%が否定的な回答をしており、「自ら課題を設定し」の部分で改善の余地を残した。また、ICT活用に対する保護者の満足度については、90% | 効率的に進められるとともに探究的な学びに資する新たな活用方法を模索 し、実践する取り組みを進めていく。また、ICTデバイス活用の状況を保護 者を始め地域の方々にも具体的に知ってもらうために、授業公開やホーム ページ、広報誌等を通じての広報活動も一層強化していく。 |
| 生徒支援 | ができるように、全教職員 | 前期に生活委員が生徒玄関で挨拶運動を行い、また、各クラスの代議員や生活委員が主体となり、クラスメイトの容儀の確認を行うようになって2年目の今年は、生徒の成果指数は98.9%(前年比+2.4)、保護者の満足度指数は93.2%(同+3.1)、教職員の取組指数は96.9%(同+8.0)とすべて目標指数を上回り、満足のいく結果となった。 | 理解のもと保護者と連携して継続的に指導する。 |
| | ②生徒の人権意識や規範意 識が高まるように普段から 声かけを行う。 | 新型コロナウィルス感染予防のため、制限された学校生活を送る中、生徒の成果指数は92.2%(前年比+1.3)、教職員の取組指数は97.0%(同+4.5)でともに目標指数を上回った。一方、保護者の満足度指数は83.9%で前年より0.6ポイントダウンとなり2年連続目標指数を下回った。 | |
| | | 令和4年度より採用した評価内容であるため、前年度との比較は出来ないが、生徒の成果指数は97.3%、保護者の満足度指数は98.2%、教職員の取組指数は96.9%とすべて目標指数を大きく上回り、満足のいく結果となった。 | 3年前から生徒会を中心として新しい制服の導入や校則の見直しを行ってきた結果、生徒が主体的に、学校祭、球技大会、遠足、ルールメイキングなどで活動できるようになってきた。また、主体的に学ぶ探究学習を行っていることも主体的活動の後押しになっていると考えられる。次年度は目標指数を85%から90%に上昇させる。 |
| 進路支援 | ①自らの進路について考える機会の充実と進路情報の効果的な活用を図り、主体的かつ適切な進路選択を支援する。 | を達成できた。「生徒への積極的な進路情報提供」は、昨年度より約2.5ポイント取組指数が上昇したが、目標の100%にはまだ違い。 生徒の「面談やガイダンスを通して得た情報により、進路目標を明確に持つ」は、3年生の取組指数が3年間で86.2%→87.0%→90.4%となり、目標の90%を超すことができた。2年生の取組指数も71.7%→76.8%と指数が微増している点、1年生が90.0%と高い取組み指数を出している点も評価できる。探究的な学びを推進している効果だと思われる。保護者の「進 | 生徒が、I・2年次からしっかりとした進路目標を持つために、各種模擬 試験だけでなく、進路希望調査、進路ガイダンス、小論文・志望理由書指 導、企業人によるキャリア教育、大学教授・専門学校講師による模擬審 義、就職・公務員ガイダンス、進路支援部通信発行など各種進路支援を実施している。そして、今後も、時代の変化に合わ、内容を見直し、真に生徒たちに必要なものを提供する。さらに、生徒の実態に沿うように学年会との連携を今まで以上に深める。2年連続で4月初めに行った「振り返り」の重要性を伝えた学年ごとの進路ガイダンスは、生徒たちに刺激のあった企画となったため継続していく。 |
| | ②模擬試験等を有効活用 し、進路意識向上・学力向 上に努める。 | 5 教科担当者の「模試の事前・事後指導」への取組指標は、88.9%と目標の100%に届いていない。生徒の「模試への過去問演習や復習の取組」への成果指標は昨年度より、10ポイント以上増加し、目標の70%を達成できた。保護者の「模試結果を見ての子供との話し合い」への満足度指標は、ほぼ昨年並みの75%強であるが、目標の80%にはまだ届いていない。 | に、学年会・教科と連携して意識の向上を図る。進路支援部通信等での啓 発活動も継続する。保護者と生徒は「個票成績綴り」を介して進路につい |
| | | 今年度初めて設定した目標である。目標をA+Bの合計を学年を追うごとに向上させ、3年生では、90%以上とした。結果は、「年生33.0%、2年生59.6%、3年生78.5%と上級学年ほど数値は高かったが、目標とは大きな開きがあった。個々には、積極的にオープンキャンパス等各種イベント、大学や地域との連携事業に積極的に参加している生徒はいるが、全校的にはその数は多いとは言えない。 | せる支援が必要である。今年度は、オープンキャンパス等への参加の仕方 (数)を尋ねる質問であったが、次年度以降は、3年間のスパンで進路選択 に関して、自主的な活動が行えたかどうかを尋ねる形の質問への変更を検 |
| 保健 | | 全ての観点で目標指数を上回った。生徒回答の「清掃活動に真面目に取り組んでいる。」の項目でA+Bの合計値は99.3%と、非常に高い水準であった。普通教室がリノベーションによりきれいになったため、美化意識が高まったことも一因と考えられる。 | 方を周知徹底させ、状況に応じて注意喚起する等、年間を通して指導して |
| 健管理 | 見・対応と特別支援が必要 | 昨年度に引き続き今年度も、全ての観点で目標指数を上回ることができた。生徒は、「相談しやすい」が84.9%と、目標値を大きく上回り、昨年度から5.5ポイント更に上昇している。また、保護者の「相談しやすい」も77.8%と目標値を大きく上回っている。更に生徒や保護者への働きかけを進めていく。 | 生徒への個別対応を充実させる。生徒には、相談室や保健室の役割につい |
| 校外との連携・ | 教科、学校行事等で学校外 と連携した取組みを実施す る。 | 学校外との連携については、教員の64.5%が5回程度の連携を行ったと回答しているが、目標指数(80%)は下回る結果となった。目標には達しなかったが、目標指数を高めに設定しており、今後も連携を高める工夫をしていきたい。総合的な探究の時間については、各学年とも積極的に学校外の諸団体等と連携する活動が見られ、その活動に携わらない教員にとっては機会が少なかったと思われる。また、各教科で行われている授業研究が学校外との連携によって進められている教科もあるが、一部にとどまっている。これらの活動に中心的に関わる教員とそうでない教員との間の差が結果として表れていると考えられる。 | コーディネータ―の一層の活用を進める。教務部と協力し、中高連携や高 大連携を意識した授業研究を進める。 |
| 情報の発信 | ②生徒自身が自分たちの状況を発信する場面を各学期、複数回設定する。 | 生徒が探究の成果や過程を学校外部に向かって発表する際の満足度を問うた。結果は、87.0%が、「十分に満足している」「おおおね満足している」と回答し、目標を達成した。3年生は、7月に1度、発表をそ行い、それを踏まえて9月に最終発表を行った。大学の先生方をアドバイザーとして招き、質問にも堂々と答えた。1,2年生は、小グループでの活動を中心に発表の機会を重ねている。回を追うごとに要領を得、自分の意見を語れるようになっている。一方で、満足していない生徒も13.1%存在する。探究活動の進行具合やファシリテーションのあり方等、工夫して発表しやすい環境を整えていきたい。 | 発表の機会は複数回確保する。ファシリテーションの技術を高め生徒が語りやすい雰囲気をつくる。探究の時間だけでなく、普段の授業や学級活動においても生徒が安全に自分の意見を述べ、それが受け入れられる環境を作るようにする。 |